
本メールは日本臨床検査専門医会の電子メール新聞 JACLaP WIRE No.70 です。

=====
目次
=====

【お知らせ】

- 【1】会員動向(2004年4月28日現在数 670名, 専門医 465名)
- 【2】平成16年度会費納入について
- 【3】日本臨床検査専門医会振興会セミナーについて
- 【4】第二回常任・全国幹事会議事録
- 【5】14回春季大会・総会について
- 【6】第55回教育セミナー

【最新トピックス】

- 【1】代替医療

【MTJ(The Medical & Test Journal)】

- 【3月21日号から】
 - 【4月1日号から】
 - 【4月11日号から】
-

=====
JACLaP WIRE
=====

【お知らせ-1】

会員動向(2004年4月28日現在数 670名, 専門医 465名)

新入会員

五十嵐雅彦 先生：山形大学医学部器官病態統御学講座液性病態診断医学分野
佐竹宣法 先生：JA高知病院 検査科
黒滝日出一 先生：大館市立総合病院臨床検査科

所属変更

岩谷良則 先生： 旧 大阪大学医学部保健学科病態生体情報学
新 大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻生体情報科学講座
小林 晏 先生： 旧 大阪厚生年金病院 病理科
新 東住吉森本病院 病理・臨床検査科
岡野匡雄 先生： 旧 (財)東京都保健医療公社東部地域病院
新 (財)東京都保健医療公社東京都がん検診センター
長沼葉子 先生： 旧 姓変更：佐藤葉子 山梨大学医学部臨床検査医学
新 山梨大学医学部放射線医学
木下亀雄 先生： 旧 公立豊岡病院医療情報科

菅野剛史 先生： 新 兵庫県赤十字血液センター豊岡出張所
旧 浜松医科大学臨床検査医学
新 財団法人浜松市医療公社 理事長

前田昭太郎 先生： 旧 日本医科大学付属多摩永山病院病理部 部長・助教授
新 日本医科大学付属多摩永山病院病理部 教授

上田 國寛 先生： 旧 京都大学研究所生体反応設計研究部門 III 教授
定年退職

猪川 嗣郎 先生： 旧 鳥取大学医学部臨床検査医学講座 教授
定年退職

由谷親夫 先生： 旧 国立循環器病センター臨床検査科
新 独立行政法人 国立病院機構京都医療センター研究検査科

南口早智子先生： 旧 京都大学医学部附属病院病理部
新 独立行政法人 国立病院機構京都医療センター研究検査科

海渡 健 先生： 旧 東京慈恵会医科大学附属病院中央検査部診療医長
新 東京慈恵会医科大学附属病院中央検査部診療部長

村上純子 先生： 旧 日本大学医学部臨床検査医学
新 聖母大学看護学部 専門基礎分野 教授

吉澤明彦 先生： 旧 信州大学医学部附属病院臨床検査部
新 京都大学医学部附属病院病理部

木下喜光 先生： 旧 大阪市立大学医学部研究科血液病態診断学
新 特定医療法人・特別医療法人生長会 愛風病院 内科

太田浩良 先生： 旧 信州大学附属臨床検査部
新 検査技術科学専攻 生体情報検査学

物故会員

安藤泰彦 先生：平成 16 年 4 月 8 日ご逝去

尾辻省悟 先生：平成 16 年 2 月 4 日ご逝去

ご冥福をお祈りいたします。

===== JACLaP WIRE =====

【お知らせ-2】平成 16 年度会費納入について
未納の先生方は本年度会費のお支払いをお願いいたします。
なお、本年度からは住所、氏名を入れてお届けしています。
所属、住所、その他の変更がございましたら振り込み時に通信欄にご記入ください。

===== JACLaP WIRE =====

【お知らせ-3】日本臨床検査専門医会振興会セミナーについて

以下のように開催を予定しています。振興会会員の皆様だけでなく会員の皆様の多数のご出席を希望いたします。

なお、振興会会員の皆様方には近日中に参加申込書をお届けいたします。参加希望人数とともに添付のFAX用紙で事務局までお届けいただく予定です。よろしくお願いいたします。

平成16年度日本臨床検査専門医会・第22回日本臨床検査専門医会振興会セミナー

日時：平成16年7月16日（金曜日） 午後2時～5時

会場：東京ガーデンパレス（JR、地下鉄お茶の水、電話：03-3813-6211）

題名：包括医療（DPC）施行後の現状と将来展望

-これからどうなるDPC-

1) 国立大学病院の立場から

防衛医科大学校 玉井 誠一 教授

2) 私立大学病院の立場から

帝京大学医学部 宮澤 幸久 教授

3) 一般病院の立場で今後どのように対応するか

亀田総合病院 病理部 小久保 武 部長

4) 厚生労働省の立場から

保険局医療課 中村 健二 企画官

===== JACLaP WIRE =====

【お知らせ4】日本臨床検査専門医会平成16年度 第二回常任・全国幹事会議事録

開催日時：平成16年4月10日（土） 午前11時40分

開催場所：ピュアリテイまきび 2F「千鳥」

出席者：森 三樹雄会長、神辺眞之副会長、吉田 浩副会長、石 和久常任幹事、玉井誠一常任幹事、橋詰直孝常任幹事、谷直人常任幹事、伊藤喜久幹事、荻原順一幹事、木村 聡幹事、山田俊幸幹事、前川真人幹事、石田 博幹事、渡辺伸一郎幹事、諏訪部章幹事、北村 聖幹事、岡部英俊幹事、小野順子幹事、渡辺清明幹事、土屋達行常任幹事、中原一彦監事、高木 康監事（計22名）

欠席者：池田 斉常任幹事、一山 智幹事、満田年宏幹事、尾鼻康朗幹事、猪川嗣朗幹事、上平 憲幹事、清島 満幹事、村上正巳幹事、尾崎由基男幹事

議事録署名人を吉田 浩副会長、石 和久常任幹事を指名し、議事に入る。

【報告事項】

1. 委員会報告

1) 情報・出版委員会(石 和久委員長)

Lab CP22 巻2号の案が示された。

JACLaP NEWS、JACLaP WIRE の発刊も順調に行われている。

2) 教育・研修委員会(玉井誠一委員長)

55回以降の教育セミナーの参加予定者が決定した。

3) 資格審査・会則改定委員会(橋詰直孝委員長)

前回の常任幹事会で会則改訂案が作成されたものを審議した。

4) 渉外委員会(土屋達行庶務・会計幹事)

本年度の振興会セミナーの計画がホームページに掲載されている。

講演予定の方々には了解をいただき、依頼状を送付し、抄録原稿も依頼した。

5) 未来ビジョン委員会(メ谷直人委員長)

9月の総会時に委員会を開催する予定である。WGについては追加の申請があり、9月の委員会で決定する。

【審議事項】

(1) 平成15年度決算報告(土屋庶務・会計幹事)

平成15年度の決算は、河合忠前監事、大場康寛前監事の監査をいただいた。春季大会補助は、本年度(第14回)の分も支払った関係で倍の100万円になった。平成15年度の決算は承認され、総会に報告、承認をもらう。

(2) 第15回日本臨床検査専門医会春季大会

関西医科大学の高橋伯夫教授の担当で、2005年4月に大阪で開催の予定である。

(3) 会則改定について

会則改訂案が橋詰直孝幹事より報告されたものについて修正があり、これを総会で承認を得ることとなった。

(4) 会員へのアンケートについて

幹事会で承認されたアンケートを全会員へ送付することが承認された。

(5) 来年度以降の教育セミナー、GLM教育セミナーについて

本年度はGLM WSは実施せず、第一回GLM教育セミナーとして開催する。次年度以降の専門医の受験に際するクレジットとしての教育セミナーの開催について、支部で支部長が開催することを計画している。

(6) 第16回日本臨床検査専門医会春季大会について

担当は関東、あるいは東日本、次回の幹事会までに決定する。

(7) 「健康と医療フォーラム」への協力について

日本経済新聞社が主催で行う「健康と医療フォーラム」への協力について、来場者のうち希望者に対し血液検査を実施し、その検査成績についてコメントする医師の派遣を求めてきている。日本臨床検査医学会と協力して実施する。

(森 三樹雄)

===== JACLaP WIRE =====

【お知らせ5】14回春季大会・総会について

本年度から日本臨床検査専門医会の春季大会開催時に総会を開催することになり、平成16年4月10日(土)に岡山市のピュアリテイまきび2Fで総会が開催され、下記のことが決定した。

1) 平成15年度決算について

土屋庶務・会計幹事より平成15年度決算の説明があり、河合忠前監事より監査の結果を報告いただき、承認された。

2) 第15回日本臨床検査専門医会春季大会について

関西医科大学の高橋伯夫教授のお世話で、2005年4月に大阪で開催の予定である。

3) 会則改定について

会則資格委員長の橋詰直孝幹事より会則改訂案が全国幹事会で報告され、それを修正したものが総会で諮られ、承認された。改訂された会則の内容はJACLaP NEWS 76号またはホームページをご覧ください。

4) 第16回日本臨床検査専門医会春季大会について

地域は東日本とし、次回の幹事会までに決定する。

(獨協医科大学越谷病院臨床検査部教授 森 三樹雄)

===== JACLaP WIRE =====

【お知らせ6】第55回教育セミナー

第55回教育セミナーが2004年4月18日に福武勝幸教授のお世話で、東京医大病院で開催された。24名が参加して、輸血実習と形態実習の2班に分れて、午前10時より午後5時まで、熱心に実技を行った。午後5時より6時まで懇親会があり、無事終了した。

(獨協医科大学越谷病院臨床検査部教授 森 三樹雄)

===== JACLaP WIRE =====

【最新トピックス - 1】代替医療

西洋医学以外の代替医療(代替医療、伝統医療、伝統医学、統合医療、相補医療などとも呼ばれている)が世界中で普及してきている。代替医療には、中国医学における漢方、鍼灸、気功、指圧、インド医学におけるアーユルヴェーダなどが有名であるが、この他に、マッサージ、カイロプラクティック、免疫療法、薬効食品・健康食品、薬草(ハーブ)療法、アロマセラピー、ビタミン療法、食事療法、精神・心理療法、温熱、温泉療法など多数ある。アジア、中近東、アフリカなどの発展途上国で普及している理由は、医師

の絶対数が少なかったり、医薬品が高価で西洋医学が受けられないなどである。

わが国でも、日本補完代替医療学会、日本代替・相補・伝統医療連合会議などが学会活動をしており、2004年1月末には第1回国際統合医療専門家会議が東京で開催されている。日本でも東京女子医科大学を始め、数校で代替医療の講義や臨床実習が開始され、カリキュラムにも取り入れられている。

アメリカでは、ハーバード大学を始め20校以上の医学部に「代替医療研究センター」ができ、診療・教育研究が行われている。米国では2000年に1億5800万人が代替医療を利用し、170億米ドル支払っている。アメリカの医師の場合、200時間の講習を受けることで鍼灸・漢方を扱えるようになっている。ヨーロッパでは各国に薬草療法の伝統が根付いており、ヨーロッパの約3分の1の人々が代替医療を利用している。治療する人には一定の医学的な教育とそれに基づいた資格が要求されている。世界中で今後、さらに普及すると思われる。

(獨協医科大学越谷病院臨床検査部教授 森 三樹雄)

===== JACLaP WIRE =====

【MTJ (The Medical & Test Journal) 3月21日号から】

メリトクラシー研 検査の値引き料率は、マルメ項目と単項目で格差

臨床検査メリトクラシー研究会(沖田政義会長)が3月14日、都内で開かれ、萩原病院検査室の中尾辰彦技師長は、検査センターとの価格契約で“検査点数に基づく値引き料率”をマルメ項目数の点数に掛け合わせて行う場合と単項目点数を加算して掛け合わせる場合では値引き率が大きく異なるため、十分に検討していくことが必要だとし、安易な料率契約に注意を喚起した。

中医協総会 4月からのDPC試行適用は4病院に

厚生労働省は3月17日の中医協総会に、DPCの試行的適用に向けた進捗状況を報告した。4月から試行的適用を実施するのは、日鋼記念病院(北海道室蘭市)、亀田総合病院(千葉県鴨川市)、赤穂中央病院(兵庫県赤穂市)の民間病院3施設と、国立病院九州医療センター(福岡県福岡市)の計4施設。19日に医療機関名と各医療機関別係数を官報告示する。

昭和大学病院 医療機関別係数アップ、収入はマイナスも

東京都の昭和大学医学部附属病院(879床、五味邦英病院長)は、4月からDPC

導入2年目に入る。現在、同院は、4月のDPCの見直しによる診断群分類のツリー図の大幅な精緻化のため、全面的なシステム切り替え作業を進めている。2年目のDPCについて同院は、医療機関別係数が前年度よりも0.0453(3月時点)アップしたが、一部の症例で新旧点数を比較したところ、若干のマイナスになることも予測できるとした。

厚生労働省検討会 乳がん検診はマンモグラフィと視触診を併用

厚生労働省の「がん検診に関する検討会」(座長=垣添忠生・国立がんセンター総長)は3月12日、乳がん検診の対象を40歳以上に絞り、全受診者に対してマンモグラフィと視触診を併用することを決めた。検診頻度は隔年。40歳未満は「検診の対象外」とすることも概ね了承した。

日本ビオメリュー 血液製剤の細菌感染対策を事業化

日本ビオメリューは、より安全な血液製剤の使用に向けた事業を本格化させた。同社は3月11日、プロジェクト管理室を立ち上げ血液製剤を対象とした細菌検査ビジネスをスタートした。血液製剤に細菌検査が必要な理由として、献血者自身の血液中の細菌感染のほか、採血時に表皮を消毒しても毛根や汗腺から細菌が混入することが考えられるため。

【MTJ(The Medical & Test Journal)4月1日号から】

日本糖尿病学会・渥美監事 糖尿病診療でHbA1cの継続実施は不可欠

2004年度診療報酬改定では、200床以上の病院の外来診療料で検査包括項目に組み込まれた糖尿病患者の血糖コントロール“HbA1c”について波紋が広がっている。日本糖尿病学会の渥美義仁監事(東京都済生会中央病院内科部長)は「糖尿病検査の項目選択は、経済性だけを優先した形で決定するようなことがあってはならない」と苦言を呈したうえで、「学会の診断基準で採用しているHbA1cの検査は、今後も臨床現場で継続して行っていくことが必要だ。それによって、データ集積を進め、糖尿病診療の質的向上に寄与させていくことが重要だ」とした。

自民党厚生労働部会 臨床検査技師、衛生検査技師等一部改正法案を了承

自民党厚生労働部会（尾辻秀久部会長）は3月18日、衛生検査技師資格の廃止や臨床検査技師の定義を見直す議員立法「臨床検査技師、衛生検査技師等に関する法律の改正案」を了承した。同法案は公明党との「与党提出」になる見通し。自民党は同法案の国会提出に向けた党内手続きを終了させ、与党政策責任者会議に報告した。

環境省 手術室排出はすべて感染性廃棄物、判断基準のマニュアル

環境省はこのほど、判断基準があいまいだった注射針などを含む感染性廃棄物について、廃棄物の形状、排出場所、感染症の種類など具体的な基準を示した改正「廃棄物処理法に基づく感染性廃棄物処理マニュアル」をまとめた。感染性廃棄物の制度は、1992年に成立した特別管理廃棄物制度で導入された。

薬食審・血液事業部会 輸血医療の安全性確保に向け総合対策を了承

厚生労働省の薬事・食品衛生審議会血液事業部会（部会長＝溝口秀昭・東京女子医科大学医学部長）は3月19日、輸血医療の安全性確保のための総合対策を了承した。総合対策は医療現場での適正使用、輸血後感染症対策などの5つの柱ごとに、これまでの関係調査会での意見を反映させた政策を明記した。

日衛協通常総会 新会長に伊達名誉顧問（参議院議員）を選出

日本衛生検査所協会の通常総会が3月25日、都内で開かれ、役員の任期満了に伴い、新会長に伊達忠一名誉顧問（参議院議員・札幌臨床検査センター）を選出した。25日の通常総会は、山本義教会長による「会長として最後のあいさつになる」との勇退発言から始まった。これにより25年間続いた山本長期体制が終焉を迎えた。その後、新理事の互選により伊達忠一氏が新会長に選出された。

第2回日本医療技術者団体連絡協議会 会長には小崎日臨技会長が就任

日本医療技術者団体連絡協議会は、2回目の会合を3月23日、東京・日臨技会館で開かれた。同連絡協議会は、医療技術者の地位向上と福祉の増進を図り、国民のための医療の向上に寄与することを目的に設立した。

スコットランド 超音波と振動による乳がん検診技術を開発

スコットランド国際開発庁はこのほど、ダンディー大学の外科医、コンピュータの専門家ら研究グループが、医院でも乳がん検診が可能な画期的な技術を開発したと発表した。この技術は、がん組織が周辺の正常な乳房の組織に比べて硬化している特長を利用して、超音波と振動を組み合わせることで乳房の病変を初期の段階で発見する。

【MTJ (The Medical & Test Journal) 4月11日号から】

国内のISO15189 認定 従来価格より大幅に低廉化へ

日本適合性認定協会 (JAB) と日本臨床検査標準協議会 (JCCLS) によるISO15189の認定事業は、年内に国内の医療機関でパイロット認定が行われる方向にあることが、4月3日、広島市で開かれた日本臨床検査自動化学会春季セミナー (神辺眞之例会長: 広島大学教授) で、中原一彦教授 (東大病院) 伊藤喜久教授 (旭川医大) の報告から明らかになった。さらに今回のISO15189認定では、受審を阻害する最大の要因といわれるISO認定 (認証) 取得にかかる高額な価格を、従来の価格の5分の1 ~ 10分の1まで抑え、広く国内の医療機関が取得に参加できる道を拓く方向にあると説明した。

厚労省 「B型肝炎について～一般的なQ & A」を作成

厚生労働省は3月31日、「B型肝炎について～一般的なQ & A」を作成した。「Q & A」は、B型肝炎の原因や治療法など、基本的な項目に対して回答を簡略化してまとめた「簡易版」と、ウイルスの特性やその検査・診断、母子感染のリスクなどに対する質問に答えた「詳細版」で構成されている。厚労省は「Q & A」を都道府県などにあてて送付するとともに、同省のホームページ (<http://www.mhlw.go.jp/qa/index.html>) にも掲載した。

日臨技など 「STD・生活習慣病撲滅キャンペーン」を実施

日本臨床衛生検査技師会は4月15日の世界医学検査デーに合わせ、「STD・生活習慣病撲滅キャンペーン」を関東甲信地区7地域で行っている。4月4日は神奈川県臨床衛生検査技師会が横浜駅周辺で同キャンペーンを実施、エイズや生活習慣病に関するパネル展示、さらに血糖測定、アンケート調査などが実施された。

日衛協の診療報酬改定説明会 「輸血の血液型検査も引き下げに」

日本衛生検査所協会はこのほど、都内で2004年診療報酬改定説明会を開いた。厚生労働省保険局医療課の一戸和成課長補佐は、特に検査を中心に改定内容を解説。特に輸血の点数について、「諮問答申書に引き下げと記載されていないが、血液型の検査は、検査の項目で引き下げたのと同じ点数で輸血の項目も引き下げ、官報告示を行った」と述べた。

=====

JACLaP WIRE, No.70 (2004年5月7日発刊)

発行：日本臨床検査専門医会 [情報・出版委員会]

編集：JACLaP WIRE 編集室 編集主幹：満田年宏

記事・購読(配信)・広告等に関するお問い合わせ先：

〒236-0004 横浜市金沢区福浦3-9 横浜市立大学医学部臨床検査部医局内

E-mail：jaclap_wire@yahoo.co.jp

TEL:045-787-2721 FAX:045-786-0392

日本臨床検査専門医会ホームページ：http://www.jaclap.org/

JACLaP WIRE バックナンバー：

http://www.jaclap.org/wire/index.html#TOP

会員の皆様からの寄稿をお待ちしております！

メーリングリスト配信先の変更には

氏名、2.現行登録アドレスと3.変更希望メールアドレスを添えて

jaclap_wire@yahoo.co.jpまで「配信先の変更希望」としてお送り下さい。
